SEA TRIAL

GERMAN QUALITY

SEALINE F430

ドイツに本拠地を移した「**SEALINE**（シーライン）」のフライブリッジシリーズとしては初めて日本上陸を果たした「**SEALINE F430**」。
モダンなスタイルのエクステリアと、ラグジュアリーなインテリア、そしてこだわりにあふれた意匠が魅力の43フッター。
このクラスにして2つの大型ステートルームを擁した新世代のフライブリッジクルーザーを横浜沖でシートライアル。

text: Atsushi Nomura　photo: Makoto Yamada
special thanks: WINCKLER　www.sports-w.com

アグレッシブでファンな走りを見せてくれる。走らせて愉しいボートと言うのはやはりプレジャーボート本来の楽しみを思い出させてくれる。

意匠を凝らしたラグジュアリーなインテリアと広大な居住空間 そして素晴らしい走りを堪能できる万能フライブリッジクルーザー

横浜ベイサイドマリーナの桟橋を離れ、沖へと向かう。ステアリングを預かるボートは「SEALINE F430」。ドイツ製、43フィートのフライブリッジクルーザーだ。VOLVO PENTA IPSのジョイスティックを使ってゆっくりと水路を行く。フライブリッジのアッパーステーションからの見晴らしは素晴らしく、右舷左舷ともに見やすく、離着岸時も安心だ。フライブリッジはアフトデッキ全体を覆うように後ろに延びており、その部分までフライブリッジのデッキが拡がっており、サイズを考えるとかなり広い。右舷のヘルムステーションの左側にパッセンジャーシートが並び、その後ろにL字型ソファとテーブル、後ろにバーベキューグリルを備えたシンクが備わる。最後尾にレーダーアーチが伸びる。ジョイスティックからシフトレバーに駆動系を移し、スロットルレバーをぐっと倒すと、スムーズにプレーニングに入る。

「SEALINE F430」は全長13.55mに対して全幅は4.20mと結構なワイドビーム。パワートレインはVOLVO PENTA IPS仕様で、IPS500×2基が今回の艇。他にIPS400、IPS600もチョイスできる。

フライブリッジ右舷寄りのアクセスステップを降り、メインサロンにあるヘルムステーションに移る。プレーニング状態からさらにスロットルを倒し、回転を上げていく。トップスピードは28ノット程度。ほぼカタログスペック通りのスピード性能だ。その状態で自身の引き波に突っ込んでみると、きれいに波を切る。ストリンガーを配した剛性の高い艇体で、振動もほぼない。以前に試したSEALINEにも共通するが、艇体はやはり頑丈に作られている。

広々としたフライブリッジ。右舷にアッパーステーション。左舷にバックトゥバックのパッセンジャーシート。後部にはL字型ソファとテーブル、さらにはバーベキューグリルも備えたシンクも設置されている。抜群のパーティースペースだ。

サイドウィンドウの広さがとにかく魅力のメインサロン。右舷のドライバーズシートからは足元の水面も見下ろせる。またシートアレンジによってここも素晴らしいパーティー空間になる。後ろ寄りにはギャレーがあり、アフトデッキとも一体化する

さらに高速のままスラロームや急旋回を実施する。「SEALINE F430」の傾きはとても穏やか。視界もかなり良好なまま旋回できる。そして意外なのは28ノットというスピードの割に、ロアステーションで操船していても、かなりアグレッシブな走行フィールを感じられることだ。ゆっくり走らせても、高速でも、とてもファンなドライビングだ。

*

一見するとオーソドックスなスタイルのフライブリッジクルーザーだが、随所にこだわったディテールが見られる「SEALINE F430」。艇体そのものは、広大なハルサイドウィンドウ、立ち上がったバウステムなど近年のヨーロッパのトレンドを踏襲。フォアデッキは高いバウレールに囲まれ、大型サンパッドが中央に配置されている。サンパッドの最前部はベンチシートにもアレンジ可能。足元が一段下がっており、座り心地が非常に良い。面白いのは前側のバウレールとデッキにマットを取り付け可能なこと。これは素晴らしいアイディア。フォアデッキを一つのパーティースペースに変えてくれる。

サイドデッキは左右で幅が異なる。パイロットハウスを大きく左にシフトさせ右舷サイドデッキを広く取っているのだ。シングルハンドでの着岸が容易なように、ドライバーズシートのある右舷での着岸を前提に作られている。Portside（左舷）がすっかりPortではなくなってしまったように思うが、これも近ごろのヨーロッパ艇に多い傾向だ。さらに驚かされたのはヘルムステーション右側に設けられたサイドデッキへのアクセスドア。クリアガラスのドアは良く見られるが、足元まですべてクリアというのは珍しい。しかもこの部分のブルワークトップがえぐられたような形状になっているため、操船席から足元の水面まで見渡せる。かなり新鮮な感覚。走行中にはもっと小さいボートを走らせているときのような印象を持った。そもそもヘルムスのすぐ右にドアが有る時点で、やはり右舷着岸前提のボートと言える。

ワイドビームな艇体のためアフトデッキは長さ以上のボリュームを感じさせる。折畳みテーブル、L字ソファが並び、フライブリッジ後部が庇状に上部を覆う。サロンドアはほぼ4分の3近くまで開くため、メインサロンとアフトデッキは簡単に一体化する。アフトデッキ左舷側のカウンターはサロンのギャレーと繋がっており、使い勝手は抜群だ。

メインサロンは左舷のギャレーの前にソファ＆テーブル、右舷にカウンターとドライバーズシートが来る。落ち着いた風合いのインテリアはとてもラグジュアリーな雰囲気だ。ドライバーズシートの後ろに妙に広い空間があるが、これはドライバーズシートを横向きに配置するためのスペース。メインサロンも良く考えてデザインされている。そしてとにかく窓の面積が広い。前述のサイドドアも含め、かなり低いレベルまでサイドウィンドウがあるため、室内は明るい上に、操船中の視界も良好だ。

ヘルムステーション脇のアクセスステップを降りロアフロアへ。ヘッドクリアランスこそ普通だが、空間そのものは43フィート艇としては驚くほど広い。マスターステートルームクラスの大型キャビンが2つも備わっているのだ。今回の艇の場合、アイランドタイプのクイーンサイズのベッドを配したバウキャビンとヘッド＆シャワールーム、ミジップにはオーナーズキャビンが並ぶ。バウキャビンはサイドとトップに窓があり非常に明るい。またフルビームのオーナーズキャビンは、アイランドタイプのクイーンサイズベッドの他、左舷にバニティエリアとベンチシート、さらに専用の個室トイレとシャワールームを備えている。広めのサイドウィンドウがあり、室内は明るい雰囲気だ。

ロアデッキの2部屋については多彩なオプション設定がある。バウキャビンは今回のクイーンサイズベッド仕様（A1）の他、2バース仕様（A2）がある。ミジップのスペースはバニティエリアの無いオーナーズキャビン仕様（B1）、今回の艇のオーナーズキャビン仕様（B2）、ツインベッド／クイーンサイズ

フォアデッキのバウレールにはマットを装着可能。このアイディアは無かった！ サンバッドとの組み合わせも斬新。アフトデッキはメインサロンと一体化する。

ベッドの2キャビン仕様（B3）、クイーンサイズベッド／ダブルベッドの2キャビン仕様（B4）と4パターンも用意されている。またオプションといえば、トランサムのスイミングプラットフォームを可動式に変更することも可能だ。プラットフォームにアクセスステップが着いており、水面下に没した状態でデッキに簡単にアクセスできる。これも今までありそうで無かったアイディアだ。

*

「SEALINE F430」のラグジュアリーなインテリアと広大な居住空間は43フィート以上。素晴らしい走行性能と操作性はわくわくさせてくれて非常に愉しい。ある意味で万能に楽しめるフライブリッジクルーザーである。

以上、さまざまなこだわりのアイディアと意匠に富んだSEALINEだが、このブランドのルーツは元々イギリスにある。SEALINEは1972年にイギリスで創業、かつてはイギリスの有力ブランドの一つだったが、2013年にドイツの大手マリン・コングロマリットの「HANSE YACHTS」グループの傘下に入り、ドイツへ移転、そして見事な復活を遂げる。ここ数年は、ヨーロッパの主要なボートオブザイヤーにて、受賞やノミネートが相次いでおり、その評価は年々高まっている。 ***P.B.***

ミジップにはバニティエリアも備えたオーナーズキャビン、フォアにはバウキャビン。どちらのキャビンもかなり広めでアイランドタイプのクイーンサイズベッドを備える。

SEALINE F430

全長　13.55 m
全幅　4.20 m
喫水　1.13 m
重量　13.65 ton
エンジン　2× VOLVO PENTA D6 IPS500
最高出力　2× 380 HP
燃料タンク　1,100 L
清水タンク　450 L
問い合わせ先　ウインクレル　TEL: 045-681-0104
www.sports-w.com/yacht/

YouTube